

寒中お見舞申し上げます。

—喪中につき年賀欠礼—

Review of 1997, Hope for 1998

◆浩司編

4月に美澄を出産準備で日本に帰した時は、1人でやっていけるか大変不安でしたが、美澄を慕う使用人達の献身的な働きを得て、無事7カ月の単身生活を乗り切ることができました。そして、長男樹生（みきお）の誕生。妻、そして三鷹と岐阜の父母の愛情を得てすくすくと育ち、11月にカトマンズに里帰り（?）。元気で再会することができました。また、去年は流産で悲しみに暮れたシータが、今年再度妊娠し、これまで極めて順調で、皆様がこの「サンチャイ通信」をご覧になれる頃には無事出産の見込みであることもお知らせしておきたいと思います。

一方で悲しい出来事も。1月はJICA専門家の逝去で遁走し、12月には祖父を亡くしたにも関わらず、業務多忙でどうしてもカトマンズを離れられない辛さを味わいました。祖父は88歳の大往生だったとはいえ、海外駐在は辛いものです。

私の任期は、1998年半ばでいよいよ終了する見込みです。

◆美澄編

今年一番の大きな出来事は出産したことでした。それまでのマイペースな生活から子供中心の生活に変わり大変ですが、自分の子供は可愛いですね。去年の妊娠初期は流産の恐れがあったり、風邪をひいたり元気な子供が生まれるのかと心配でした。安定期に入ってから順調で、4月に日本に帰り、6月に無事長男樹生を出産する事が出来ました。

お産は約3時間と安産でしたが、終わった時は疲れ果てて、こんな経験2度としたくないと思ったものです。予定より3週間早く生まれたので浩司さんの一時帰国には間に合いませんでしたが、生後2週間から約2ヶ月子供と過ごすことが出来ました。9、10月は再びネパールと日本と離ればなれの生活になりましたが、11月の里帰りに向けて忙しい日々を送りました。生後4ヶ月の赤ちゃんを連れてくるのは心配でしたが、幸い樹生はすくすくと元気に成長しています。

母となって、今までのような身軽な行動は出来ませんが、1998年は残り少ないネパール生活をエンジョイしたいと思っています。

カトマンズの清しこの夜

ラクシュミプジャは光の海

今年のティハールは10月30日～11月2日の4日間だった。今年の場合、30日はイヌにプジャ（お清め）を施し、夜は富の神様「ラクシュミ」を各家に迎え入れるために街中がライトアップ、31日は牛にプジャを施す日、1日はネワール暦の新年を祝い、2日の、姉妹が兄弟の健康と繁栄を祈る「バイティカ」でティハールを締めくくった。

中でも印象的なのは30日の「ラクシュミプジャ」だった。各家が朝から大掃除、玄関を綺麗に飾り、夕方には牛糞をこねて玄関から家の中に続くラクシュミを招き入れる道を描く。そして家中の明かりを灯し、さらには玄関やベランダにオイルランプやロウソクを灯し、幸福を招き入れようとする。カトマンズで最も電力消費量の大きい夜である。

子供たちは夜になると家々を廻り、「デシレ」「パイロ」と交互に叫び、楽器の演奏に合わせて歌い踊り、その家の幸福と繁栄を祈る。訪問を受けた家は、お礼に僅かの礼金（約50ルピー）を渡す。カトマンズで最も小銭が必要な夜である。

また、この季節になると街のあちこちで爆竹の破裂する音がする。子供たちは、ラクシュミプジャの夜になると、至る所でロケット花火を打ち上げる。爆竹やロケット花火を使った大騒ぎは、夜半まで続く。夜、家のベランダから街を見渡すと、無数の光の海を楽しむことができる。カトマンズで最も夜景の美しい夜である。

今年のラクシュミプジャの夜は、我が家でKC夫妻とチェットリー式のプジャを行った後、私は近所のバジュラチャリア家にお呼ばれに出かけ、ネワール式の食事を堪能して家路についた。1人で歩いて帰る道すがら、カトマンズの夜の彩りを眺めながら、俺も「サンチャイ通信」でネパールの悪口を随分書いてきたけれど、この国もまんざら捨てたものではないなと思った。信仰を大切に生きる彼等を見ていて、これだけはいつまでも無くさないでほしいと心から願った。（浩司）

Message from Koji & Misumi...

10月末に内田所員が病氣療養で一時帰国し、その分の仕事を現有勢力で切り盛りしててんでこまいった11月初旬のある日、私は、これまで2年間一緒にチームを組んで働いてきたネウパネさんから辞表を提出された。

彼は元々、カトマンズの5つ星ホテルで人事部長をやっていた人間で、過去の経歴を見ても自分のキャリアアップのために転職を繰り返してきており、JICAで採用になった当初から、なんとなく彼がこの事務所にも長く留まるとは思えないでいた。前職と比べて給料は良くない筈だし、高カースト出身だから自分で動かないで他人を使おうとするし、きっと私の指示の仕方「自分で考えて自分で行動しろ。」にも反発はあっただろうと思う。それでも、2年間一緒に働いてきて、彼は、私が割り振った「地方開発」や「環境」といった分野をよく勉強してくれたし、私に代わって出席した会議でもよく発言してくれていた。事務所の仕事の中では比較的ローカルスタッフがイニシアチブを取りやすい、開発調査や専門家養成研修の受入準備では、私の指示以上によく動いてくれるようになった。私の担当だった「村落振興・森林保全計画」の専門家の方々もネウパネさんの存在を徐々に認知し、その働きに高い評価をして下さるようになってきた矢先の退職だった。

私自身、某金融機関を退職してJICAに入団した人間であり、辞意を漏らす者に対しては人一倍理解はあるつもりだ。しかし、誰が見ても「このクソ忙しい時期に！」と思うタイミングで辞表出されて、なんか拍子抜けしてしまった。彼は私が思っているほど周囲の状況を見ていなかったのかもしれない。ましてや、自分が現在民間3社から職のオファーを受けていて、どれにするか悩んでいる等と瞳を輝かせて言われた日にゃ、「おいおい、そりゃ反則だぞ！」と思わずにはおれない。

彼の前途は祝福はしたいと思う。事務所では「彼がソルティ（5つ星ホテル）に転職するなら、今後ソルティは使わん！」等という意見が大半だが、私は、ソルティのNo.3のポストに就いて従業員を使う立場の方が、パフン（最高級カースト）の彼には合っているような気がしている。むしろ、彼のような人材を十分に使いきる体制になっていないJICA自体に（勿論、不満の出所は別にあつたとしても、彼を納得させて使いこなせなかった自分自身にも）問題があつたと思う。

12月には長所員が異動で本帰国し、後任の着任まで1カ月空く。ネウパネさんの後任は早くて1月採用である。体制立て直しまでの約1カ月は、何をネウパネさんの後任にどのようにやらせるかを考えながら、仕事をしたいと思う。（浩司）

付加価値税の導入

11月中旬のある日、浩司さんから電話がかかり、「ガソリンが買えなくなるかもしれないからすぐに行きに行つて。」と言われ、ドライバーに指示して、車のガソリンを満タンにし、自家発電機用のガソリン、灯油も念のために買いに行かせました。するといつもより時間がかかったので、どうだったか聞くと、ガソリンは問題なく買えたが灯油を買うのに何軒か店をまわり、なおかつ35リットルのタンク満タンには売ってくれなかったと言うのです。この時点では灯油の売り控えだけだったので、3日ほどするとガソリンスタンドに長蛇の列が出来ました。こうなるなるべく車に乗らないようにしなければなりません。またコックさんによるとお砂糖もなくなるとテレビで言っていたということなので、あわてて顔馴染みの店に行くと、1kgしかなく明日来るからと言われました。翌日買いに行くと今まで1kg25ルピーだったのが前日は27ルピー、今日は28ルピーと2日で3ルピーも値上げされているのです。それでも手に入ればいい方で、顔馴染みでなければ売ってくれないのでした。

これら一連の騒ぎは、突然導入された付加価値税で小売価格が決まらないことによる売り控えでした。結局1週間程で売り控えは収まったのですが、これがネパールなのねと、ネパールに戻ってきたことをしみじみ感じました。（美澄）

離乳食を始めました

たくさん食べて丈夫に育つてね

ネパールに着いて2週間ほどたち、樹生も5ヶ月になったので離乳食を始めました。それまでは私達が食事していると、一緒に口をモグモグ動かし、ヨダレがダラダラ出てきていかにも食べたそうにしていたのです。幸い20年の経験を持つベテランコックさんが週に3回我が家に来てくれているので、彼女ネパールで買える食べ物で何をあげていいか、どうやって調理するかを聞き、まずは糊状のお粥をあげました。すると樹生は喜んでモグモグとあつと言う間に食べてしまい、「もっとくれ。もっとくれ。」と催促するのです。こんなことならもう少し早くあげればよかた。

今ではお粥と野菜（人参、玉葱、ジャガイモをゆでてつぶしたもの）を毎日あげていて、時々お豆腐もあげています。またコックさんいわくナツメは体に良いと言うことなので、毎日お粥の中に入れてあります。もう少ししたら鳥肉もあげてみようと思っています。（美澄）

編集後記

◆美澄と樹生をカトマンズに呼び寄せるに際して、義父母に大変お世話になりました。短期間とはいえカトマンズにご滞在いただき、少しだけ観光案内もさせていただきました。その中での出来事を1つ。サンチャイ通信第11号（1997年1月）で「サービス最低」と酷評したClub Himalaya Nagarkot Resortにまた泊まったのですが、サービスがかなり改善されていたのが印象的でした。やればできるじゃないか。ちょっとだけネパール人を見直しました。まだ油断は禁物ですが。（浩司）

◆樹生を連れてカトマンズに来てあつと言う間に1ヶ月が過ぎました。こちらでの生活のリズムも出来、こうしてサンチャイ通信を再び皆様へ送ることが出来ました（・・・とはいってもかなり時間がかかりましたが）。久しぶりのカトマンズは6ヶ月前よりも新しいお店が増え、ちょっといい間に随分と変わった印象を受けました。また、付加価値税が導入され、ますます物価も高くなり少し住み難くなってきたような気がします。でも住めば都、残り少ない任期を楽しんでいきたいと思っています。（美澄）